

福島県浪江町における農業”新興”に向けた取り組み ～担い手育成に向けて～

目的

福島県浪江町においては避難指示解除が行われたものの、農業は復旧に程遠い状況のままである。これに対応すべく、(株)舞台ファームと連携のもと、浪江町において本学の産学官連携のネットワークを最大限に活用したコンソーシアムを形成し、浪江町の新興(復興ではなく新しい農業を興す)のコンセプトのもと、新規就農を含めた取組みを大学の「復興知」を活かして実施していく。

背景・課題 ～福島沿岸部の営農再開～

福島県沿岸部の営農再開には大きな課題が山積している

<農業者の課題(ヒアリング内容)>

- 風評被害により作っても売れない可能性
- 担い手がおらず、さらに共同作業すらできない
- 圃場や水路が荒廃してしまっている
- トラクターなどの農機具が既に無い状況
- 乾燥調整施設が津波で壊れてしまった
- 圃場が雑草で覆われていて再生が困難
- 鳥獣被害による作物被害
- 久しぶりの農作業に不安がある



営農再開による「農村地域の再生・活性化」に向けて

以下の4つの課題をクリアしなければ「農村地域の再生・活性化」が展開できない

- 株式会社舞台ファーム＝南相馬市、浪江町において営農再開支援に取り組み農業生産法人。
- 同社実施の農業者ヒアリング(H27～30年)では、4つの課題が「鶏と卵」のように複雑に絡む

(1) 人材面： 帰還住民少、担い手不足

(1) 「担い手育成」が特に重要！対応策が急務

(2) インフラ面①： 圃場整備・水系などの復旧

(3) インフラ面②： 乾燥調整設備、集荷検査倉庫、農機具不足

(4) 販路面： 販路が無い、作っても売れないという諦念

各種補助金が終了後においても、再開できない可能性

これからの農業ビジネスのポイント

■ 所有と経営の分離 ～自作農主義から転換する新たな農業ビジネス～

これからの農業ビジネスのポイント： 個別の所有者と経営者を分離して、大規模経営体を創出する

1 経営体あたりの経営耕地面積は年々増加

→ 全国の農業の傾向として、大規模化と専門化による農業経営が展開されている

① 所有と経営を分離して集団化や法人化による生産性の高い農業を展開することが必要

・ 食料自給率を見るとカロリーベースは北海道は高いが、生産額ベースにおいては青森県、宮崎県、鹿児島県の方が高い

・ 大農法・省力化により生産コストを下げ、安心・安全・安定の経営様式を確立する

→ これからは付加価値率の高い農業を展開する必要がある

② AI・ICT・IoT・ドローンなどの生産技術への応用 + 6次産業化・農商工連携+農泊などの多様なビジネスの展開

・ 農家戸数は年々減少 + 65歳以上の比率は上昇

→ 新たな担い手の育成・確保が必要

③ 上記①～②に対応できる農業経営者及び実務担当者の育成が必要

具体的な取り組み内容

浪江町における担い手育成の組織体制

浪江町・(株)舞台ファームと連携。「担い手育成」の課題を中心に、東京農大の「復興知」・「実学主義」的内容を提供し「営農再開の課題解決」を実施！

営農再開・担い手育成の
コンソーシアム



東京農大連携企業なども連携
(株)マイファーム「アグリイノベーション大学校」
など

<課題解決>

担い手育成の取組み

- ・ 担い手育成・新規就農施策の検討
- ・ 農家座談会へのオブザーバー参加
- ・ 本学学生との交流・検討会の実施

復興支援・PRなど

- ・ 6次産業化推進：販売策支援
- ・ 都内ワークショップ開催でのPR
- ・ 他企業・大学との連携・その他

複数年を想定し、浪江町への各種支援活動を展開

(1) 浪江町における担い手育成、及び新規就農策への提言

- ・ 浪江町と綿密に協議しながら、担い手育成、新規就農支援へ提言を実施
- ・ ㈱マイファーム「アグリイノベーション大学校」などとの連携

(2) 本学学生の訪問・交流事業、及び新規就農策の提言など

- ・ 単なる学生イベントに終わらず、「実学」としての交流事業を検討
- ・ まずは初年度、浪江町主催の「稲刈り学生交流会」への合流を検討

(3) 営農再開に向けた都内PRワークショップの開催など

- ・ 浪江町の営農再開の現状及び本件事業進捗を都内でPRするワークショップを年間複数回開催 → 情報交換、コラボレーションの検討
- ・ 営農再開実施内容に関する本学学生への講義の実施

(4) 「営農再開ビジョン」策定座談会へのオブザーバー参加

- ・ 浪江町・舞台ファームにて実施する農業者との「営農再開ビジョン」策定の座談会へオブザーバーとして参加 → 意見・提言を実施

(5) 6次産業化や新しい農業を展開する農泊事業などの講座を開催

- ・ 農業の6次産業化 → 本学にて実績あり
- ・ 農業者の6次産業化促進の支援活動
- ・ 生産物加工において、加工技術の提供及び販売企画支援
- ・ 地域資源を有機的に連携して総合的に活用していく